

# 学びの充実と職能向上を

研究委員会委員長 北村 雅



上高井教育会では、平成二十三年度から信

州大学教授伏木久始先生を中心講師として指導を賜り、研究を深めてまいりました。そして二十七年度、二十八年度は、「学ぶ側である子どもの目線での実践」を振り返ることをもとに、子どもの姿を謙虚にとらえ、子どもの立場にたった授業を構成していくことの認識を確かめた研究実践が行われました。

本年度は、これまでの経過も踏まえ、具体的な事例をもとに教えていただいた5つのポイントを手がかりにして、子どもと共に創る授業づくりにせまっていきたいと考えています。そして、十一月十五日の郡研究日の各研究委員会による公開研究授業に向けて、研究課題を踏まえ、各委員会の方向も大切にしながら研究を進めてまいります。そして、その研究が私たち教師一人一人の日々の実践につ

ながり、一人一人の子どもたちの学びの充実につながる研究となることを期待しています。私たち一人一人が、子どもと共に授業を創り、子どもと共に学び、育っていく。そのことが、上高井の子どもたちの力を伸ばしていくことにつながっていると思います。



最後に、授業の充実、魅力ある授業の創造は、教師の使命です。そのために私たち教師は日々研鑽を積まなければなりません。本研究委員会が先生方の指導力向上の一助になることを願っています。(東 中)



本年度の森上小学校の学びの基本に「ふるさと須坂」が据えられています。地域に学び、地域を学び、地域から学び、地域で学ぶことを各学年の発達段階に応じて様々な学習活動の中に据えていくことを目指しています。

本校の地域に学ぶ中心的な活動の一つに毎年開催している「ふれあいの日」があります。地域から講師の先生方をお招きし、親子で様々な体験をしています。昨年度は、「いす作り」「アートボール」「フラワーアレンジメント」「昔の遊び」などの十六講座を開設しました。土曜日の午前中、保護者の方や他の学年の人といっしょに、興味関心のある活動に取り組みます。「ふれあいの日」は、平成九年に、それまで行われていた「学校開放・森上ワールド」を「公開参観・ふれあいの日」と名称変更してスタートしました。本校では、二十年以上前から、地域に学ぶこと

に取り組んできました。「ふれあいの日」の保護者の方の感想には、「地域にこんな先生がいると知れてよい。来てくれる先生も楽しそうに見えます。」「昔のことを思い出して懐かしかったです。」「今時こんな遊びを教えてくださいたい人がいて感謝です。」「地域に学ぶことのよさを感じていただいています。本年度も九月九日土曜日に、地域の方を講師にお迎えして実施する予定です。また、地域で学ぶ学習も行っています。三年生は、社会科「はたらく人とわたしたちのくらし」の中にある「農家の仕事」



の学習として、りんごを作る過程と農家の方の苦労や工夫、思いを学びます。毎年、地域のN農園さんのご厚意でりんごの木を

児童一人につき一本ずつ貸していただきます。自分の名前を書いたプレートの木につるして、「自分のりんごの木」の摘果、葉摘み、収穫などの農作業をNさんに教えていただき、体験させていただいています。

地域から学ぶ学習としては、毎年二年生は、地元のお味噌屋さんから教えていただき、須坂で昔から盛んに行われてきた「味噌造り」の体験をしています。三年生の国語の「すがたをかえる大豆」にもつながる体験です。「麴」の温かさに子どもたちはびっくりします。つぶした大豆に「麴」と塩をしつかりと混ぜ、樽に詰めます。そして、二ヶ月から三ヶ月待つと、格別においしいお味噌が食べられます。

地域を学ぶ学習としては、八幡、芝宮の墨坂神社、東横町の蔵の町並みなど、歴史的にも学ぶ価値の高い資源が多くあります。また、商業施設が多く、社会員学や総合的な学習などで学ぶことが多いです。

さらに、今年度より「森上コミュニティ」の運営がはじまり、多くの地域の方に森上小の子どもを大切に考えていただいています。地域の方の思いに支えられていただきながら、「ふるさと須坂」、地域に学び、地域を学び、地域から学び、地域で学ばせていただきたいと考えています。(塚田久美子)

# 学ぶ楽しさ、浸りこむ喜び

同好会会長 天野 義孝



上高井教育会の同好会は、教育会事業の中の

職能向上を図る研修事業の一つとして、広く自分自身の職能を高めるために、同好の者が集い、自発的で継続的に活動を深めていきます。さらに、教育会の一般社団法人としての公益性に

資するため、同好会の会員は教育会の会員以外の方も認め、夏休みの一定期間に集中開催される各同好会の講習・講演会・巡検等に、広く会員以外の方や地域住民にも参加を呼びかけています。今年度も、18の同好会が発足して、活動をスタートしています。

「よく学びよく遊べ」とは、子どもたちに向かって言うだ

けでなく、「学び続ける」私たち教師にとっても、学ぶ楽しさや浸りこんで楽しむ喜びは大切なものです。自分の専門性や得意を高めたり深めたりできる同好会での活動は、きつと日々子どもたちの前に立つ時のベースになるはず。私自身も所属の会できつくりする発見やわくわくする気づきを楽しみたいと思っています。

本年度も上高井同好会が、たくさん仲間が集い、有意義な会になることを期待しています。(森上小)

# 音楽同好会の紹介

音楽同好会会長 日比野 陽子

♪母なる大地よ、あゝ♪毎年、上高井教育会総会のオープニングでの「大地讃頌」。同好会員を含め、上高井の歌好きの先生方にもご協力いただき、年に一度の大合唱を楽しみにしています。

この場をお借りして、音楽同好会で計画している様々な活動を紹介したいと思います。

【合唱交歓会：七月八日】元東京都曙星小学校蓮沼勇一先生を講師に迎え、各校合唱団の児童生徒の歌声をとおして、合唱の基礎を学びます。

【指揮法講習会：七月九日】指揮者の田久保裕一先生を講師に迎え、指揮法を学びます。教科書教材や合唱曲まで実際に参加者が指揮をしながら指揮をす

るポイントを丁寧に指導いただきます。

【発声法講習会：未定】計画中です。

【音楽授業ラボラトリー：二月十日】筑波大学附属小学校高倉弘光先生を講師に迎え、音楽づくり、鑑賞、体を動かす活動を取り入れた楽しい指導法について学びます。高倉先生の軽快なトークと、実際に身体を動かしながらの講習なので、県外からも参加者がいらっしやるほど人気です。

【同好会コンサート：二月二二日】毎年恒例冬のコンサート。県内外で合唱指導の第一人者として知られ、上田女子短期大学講師の杉山由二先生を指揮者に迎

え、メセナホールで行います。合唱の他にも同好会員のソロやアンサンブル等もあり、見て聴いて楽しんでいただけるコンサートになります。たくさんの方のご来場をお待ちしております。



同好会の活動が会員相互の研修、交流の場となり、音楽の輪が広がっていくことを嬉しく思っています。(井上小)

## 本校の宝 ⑦〇

仁礼小学校

### 校内を彩る「大きな絵」

本校には他の学校とはちょっと違う特色があります。それは仁礼小学校には「大きな絵が十枚もある」ということです。絵？と思うかもしれませんが、そのほとんどが地元出身の画家の作品で、百二十号をはじめほとんどが百号クラスのサイズです。玄関、踊り場、廊下、体育館などに飾られて彩りを添えています。

昨年度、当時の小嶋保明校長先生が「校長先生の一研究」と称して夏休みに調べ、全校集会で教えていただきました。そのことで、「本校には立派な絵がたくさん存在すること」をあらためて全校で共有することができたのです。

玄関前には「仁礼小学校全景」という絵があります。作者は横井弘三氏で、約七十年前に一年間だけ本校(仁礼村小中学校)の図工の先生をしていました。この絵は大変有名で、昨年度しばらく東京の美術館に貸し出しをしていました。横井氏の図録にもこの作品が載っています。小嶋校長先生曰く「この絵で校長先生の車が余給で買ってしまう

くらいの価値です」とのことでした。何気なくものすごい絵が飾ってある仁礼小です。

このほかにも、地元塩野町出身の画家小光男氏作「三浦海岸」(ちなみに小山氏の



「須坂の秋」が東中にも存在、塩野町出身の画家滝沢聡氏作「ブローアの街」(東中に「晩秋」が存在、米子の竹前儀才治氏作「米子鉱山全盛期」などがあります。

本校や地域とゆかりのあるこれらの絵から、仁礼小が地域の小学校として大切にされ地域に支えられてきたことが伝わります。これからも仁礼小の宝の一つとして大切にしたいと思っています。

(関 和之)